

在来アオイゴケと外来アオイゴケ

会長 勝山輝男

『神奈川県植物誌調査 2018』では県内で採集されたアオイゴケ属植物はすべてアオイゴケ *Dichondra micrantha* であり、ダイコンドラの名でグランドカバー用植物として流通するものが逸出したとされた。この植物は『神奈川県植物誌 1988』や『神奈川県植物誌 2001』では、カロリナアオイゴケ *D. carolinensis* とされていた。勝山 (2008) はアメリカ合衆国やニュージーランドの文献で扱われているアオイゴケ属植物を調べ、最近になって日本各地で急増しているアオイゴケ属植物は花柄が短く、果時に下向きに曲がること、萼片は幅の 1.5~2 倍程度の長さで、果実は萼より超出することから *D. carolinensis* ではなく、*D. micrantha* であることを示した。*D. carolinensis* は確実な帰化の記録はなく、花柄が長く、果時にも直立し、萼片は幅の 2~3 倍の長さがあり、果実は萼より超出しない。

黒崎 (2017) は兵庫県産のアオイゴケ属植物を再検討し、在来のアオイゴケと外来アオイゴケ (ダイコンドラ) とは葉の形態と毛の状態で見分けられることを示し、在来のアオイゴケは静岡県以西に分布し、やや自然度の高い神社の境内や二次林に生育することを示した。黒崎 (2017) を参考に神奈川県博 (KPM) 収蔵のアオイゴケの標本を見直したところ、神奈川県で採集された標本はすべて外来アオイゴケ (ダイコンドラ) で、一部、九州で採集されたアオイゴケの中に在来と思われるものがあつた。黒崎 (2017) を参考に、*D. carolinensis* を加えた検索表を以下に示す。

- A. 花柄は花時に葉柄の 1/3~2/3 の長さがあり、果時にも直立。萼片の長さは幅の 2~3 倍あり、果実は萼片と同長または短い…………… *D. carolinensis*
- A. 花柄は花時に葉柄の 1/4~1/2 長で、果時に下向きに強く曲がる。萼片の長さは幅の 1.5~2 倍で、果実は萼片より超出する…………… 広義アオイゴケ *D. micrantha* s.l.
- B. 葉は幅 0.3~1.8 cm、上面に伏毛を散生し、下面には柄のない T 字状毛が散生…………… 在来アオイゴケ
- B. 葉は幅 0.5~3.5 cm、ときに中央よりやや基部寄り幅が広くなり、上面に伏毛は無く、下面には柄のない T 字状毛が密生…………… 外来アオイゴケ

原 (1963) は日本やアジアのアオイゴケがキューバから記載された *D. micrantha* と同じか、近縁な植物であることを示し、同時に当時すでに芝生の代用に輸入されていたダイコンドラは日本在来のアオイゴケよりも強壯大型で花の各部も大きいことを報告し、ダイコンドラが *D. micrantha* そのものならば、日本やアジアに分布するアオイゴケは *D. micrantha* の変種扱いができることを示唆した。

在来アオイゴケの学名に関しては今後の課題である。また、カロリナアオイゴケについては引き続き確実な標本の確認が必要である。本稿を書くにあたって黒崎先生から外来ダイコンドラの情報と兵庫の植物の別刷を送っていただいた。この場を借りて御礼申し上げます。

KPM 所蔵の在来アオイゴケ標本

鹿児島県 川内市, 1931.1.2. 荒尾宏 No.1118 (KPM-NA0057443); 指宿, 1940.4.20, 大場達之 No.15274 (KPM-NA0015881); 屋久島宮之浦~安房, 1961.7.29, 宮脇昭 (KPM-NA0038196); 佐賀県 唐津市呼子加唐島, 2008.5.4, 支倉千賀子・すげの会佐賀大会 (KPM-NA016850).

カロリナアオイゴケと思われる標本

沖縄県 国頭郡国頭村比企大滝キャンプ場, 2011.4.5, 小野ふみる No.20110405009 (KPM-NA0200833).

文 献

原 寛, 1963. アオイゴケ類. 植物研究雑誌, **38**: 317-318.
勝山輝男, 2008. アオイゴケとカロリナアオイゴケ. *Flora Kanagawa*, (66): 812-813.
黒崎史平, 2017. 兵庫県産アオイゴケ属 (ヒルガオ科). 兵庫の植物, (27): 5-8.

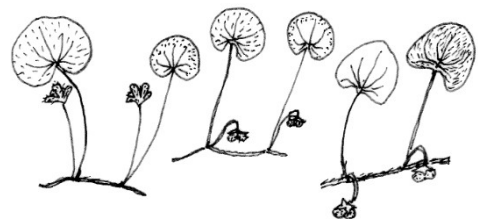


図 左からカロリナアオイゴケ、在来アオイゴケ、外来アオイゴケ